

## 2021 年版「世界の核弾頭データ」ポスター

### 【ハイライト】

- ・総数では減少、しかし核兵器国の軍用核弾頭は増加傾向
- ・英国が核弾頭の増強を発表
- ・中国、インド、パキスタン、北朝鮮の核戦力は引き続き増大

2021 年 6 月現在、地球上に存在する核弾頭の総数は推定 13,130 発です。数の上では、引き続き減少傾向にありますが、単純に喜べる状況ではありません。

二国間、さらには中国を含めた三つ巴の緊張と対立が続く中で、米国とロシアの核軍拡競争が再燃しています。米口はともに、老朽化が進んだ冷戦時代の核兵器システムのアップグレードを図ろうと、莫大な予算を投じた近代化計画を進めています。さらには、最先端の軍事技術を使った新型兵器の開発・配備も加速させています。2019 年 8 月に失効した中距離核戦力 (INF) 全廃条約をはじめ、二国間・多国間の軍備管理体制にも大きなひびが入っています。

こうした状況を背景に、米口保有核弾頭の実質的な削減は足踏み状態にあります。本ポスターが初めて登場した 2013 年から 21 年までの 8 年間で米国の核弾頭総数は 2,150 発減りましたが、軍用核弾頭 (作戦配備の核弾頭と作戦外貯蔵の核弾頭の合計) の数で言えば削減数は 850 発に留まっています。ロシアに至っては、核弾頭総数は 2,259 発減っていますが、軍用核弾頭の削減数はわずか 19 発です。さらに、21 年のロシアの軍用核弾頭数は 4,495 発で、前年の 4,306 発から増加に転じています。

この状況が示しているのは、米口保有核の大幅削減に向けたさらなる合意の必要性です。2021 年 2 月、米口は新戦略兵器削減条約 (新 START) の 5 年延長で合意しました。2011 年 2 月に発効した新 START は、それぞれが保有する作戦配備の戦略核弾頭数を 1,550 以下に削減することを約束した条約です。2018 年 2 月の期限までに、両国ともこの目標をクリアしました。この目標自体、保有核兵器の大幅削減には程遠いものでしたが、それでも両国の削減に一定の貢献をしたのは事実です。しかし、2018 年以降、両国の軍用核弾頭数の削減ペースはさらに鈍化し、前述したようにロシアに至っては増加に転じました。両政府は、より高い目標を掲げた後継条約の合意を急がなければなりません。また、条約締結までの間、両国はともに NPT 第 6 条の核軍縮義務に従い、誠実に保有核兵器の削減に取り組むべきです。

英国が核削減の歩みを止めたことも今年のハイライトの一つです。英国政府は 2020 年半ばまでに 180 発までに削減すると公言しており、このポスターが登場した 2013 年以降、英国の弾頭数は減少傾向にありました。しかし 2021 年 3 月に発表した政策文書で、英国政府は、脅威の増大を理由に、保有核弾頭の上限を 260 発に引き上げることを発表しました。NPT のもとで核軍縮義務を負っている 5 つの核兵器国のうち、ロシア、英国、中国の 3 カ国において、軍用核弾頭数が増加していることはきわめて由々しき事態であり、核軍縮努力の加速を求める非核兵器国との溝をさらに深めるものと言えるでしょう。

例年に引き続き、中国、インド、パキスタン、北朝鮮の核戦力は拡大傾向にあります。過去 8 年間で、中国は 100 発、インドは 50-70 発、パキスタンは 45-65 発、北朝鮮は少なくとも 30 発、核弾頭を増加させたと見られます。また、各種ミサイルなど運搬手段の開発・配備も急ピッチで進められています。こうした傾向に歯止めがかかる兆しは今のところありません。